

【参考】留萌川多段階の浸水想定区域図

多段階の浸水想定区域図・水害リスクマップの概要

国や都道府県では、これまで、水防法に基づき住民等の迅速かつ円滑な避難に資する水害リスク情報として、想定最大規模を対象とした「洪水浸水想定区域図」を作成し公表してきました。

国土交通省では、これに加えて、土地利用や住まい方の工夫の検討及び水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討など、流域治水の取組を推することを目的として、発生頻度が高い降雨規模の場合に想定される浸水範囲や浸水深を明らかにするため、「多段階の浸水想定図」及び「水害リスクマップ」を作成・公表しています。

留萌川多段階の浸水想定図

多段階の浸水想定図とは各年超過確率1/10、1/30、1/50、1/100それぞれの規模での降雨に伴う洪水により河川が氾濫した場合の浸水範囲と浸水深をそれぞれシミュレーションにより算出し表示したものです。



- 洪水ハザードマップは「想定し得る最大規模の降雨」として1000年に一度の規模の降雨を想定して作成されており、建設場所の検討にあたっては、リスクの発生頻度も合わせて考慮すべきと考えます。
- 多段階の浸水想定区域図を見ると、100年に一度の規模の降雨があった場合、現況河道及び短期においては、想定される浸水深は0.5mまでです。中長期的な河道整備が進んだ場合は、100年に一度の降雨でも浸水は想定されていません。
- 建設予定地は、ＪＲから土地の譲渡を受け、細長い形状ではありますが、十分な面積を有しております。道の駅や船場公園、中心市街地と連携を図ることが可能な位置であり、新たな人の流れを生み出すことで、留萌市の活性化に寄与できる立地と考えます。また、新交流複合施設の建設により、浸水が想定されている駅周辺地区の避難施設としての役割を果たすこともできます。
- 以上を踏まえ、想定し得る最大規模の降雨にも対応できる施設整備とすることで、通常時の利用はほぼ問題ないと判断し、建設予定地を駅周辺地区といたしました。

